

## 高島市における除雪課題

平成 24 年度 除雪支援体制ネットワーク委員会まとめ

### 【自助の限界】

- ・今までできていたことが出来なくなってきた
- ・限界集落では高齢化のため自分で対応できない人が多い
- ・限界集落では高齢化による体力の低下のため自分で対応できない人が多い。
- ・高齢のため、雪囲い、雪かきが自分ですることができない
- ・高齢化で屋根雪下ろしができない。
- ・自分の玄関先や駐車場の雪解けすら難しい
- ・高齢者や女性等は屋根雪おろしができない
- ・高齢者のみの世帯では除雪をできる人がいない
- ・一人では除雪できない場合がある
- ・雪囲いなど防雪にも労力がいる
- ・健康な者でも積雪量が多いと、自力で除雪できない場合もある
- ・高齢のため、屋根に登れなくなってきた。
- ・高齢者は屋根の雪下ろしができない
- ・高齢者がひとりで屋根に登って雪かきしているので心配。
- ・昼間時間帯は高齢者だけになっており、除雪が負担になっている。
- ・高齢により自らの家の雪かきもできなくなった
- ・除雪が困難
- ・自分のことで精一杯
- ・家族の人数が少なくなり、家単位で除雪することが難しくなった
- ・独居高齢者が増えてきて、雪かきができなくなっている
- ・男手がない世帯は、雪囲いもできない。
- ・若い人は平日は仕事があって、除雪をする時間がない。
- ・高齢化、単身化で除雪が困難な世帯がある
- ・一人で作業をしている人がいる（知識が無い場合と一人しかいない場合がある）
- ・ひさしまでは上がれるが、大屋根は怖い。
- ・一人暮らしの方は、屋根雪おろしが大変。
- ・家の他にも蔵や小屋がいくつもあり、それらの屋根雪も心配。
- ・かわら屋根のため自分で除けるしかない。
- ・1人暮らしになってからほっている。屋根にのぼって落ちたら大変。折れたら折れた時。
- ・玄関から水が出ている道までの雪かきを、全て自分でやらないといけないので大変。

- ・いつまで続くか分からない。だんだんえらくなってきた。
- ・県道まで（60m）が除雪してもらえないので出られない。足が痛いので雪の中出られない。滑ったら立てない。昨日もこけて1～2時間たてなかった。
- ・近所もみんな高齢者なので頼めない。
- ・80代のお父さん一人で雪囲いから雪おろしまで全てやっているが、今年はどうなるか・・・。
- ・今年から一人なのでどうなるか不安
- ・30cm以上積もると、機械もあるが、自分では難しい。
- ・雪が怖い。昨年までは問題なかったが、今年は厳しくなった。
- ・年々力がなくなっているのを実感する。どうしたらいいか心配。
- ・できる間は自分達で。ただ、先のことを考えると不安。
- ・親戚は老人が多くてたのめない。
- ・今まで出来ていた事がだんだん出来なくなっている。
- ・庇の雪を何度か落とす位で、玄関から道までの雪かきに追われ、きしむ天井をただ見上げるだけの日々を送っている。
- ・今年が夫が足が悪いので困る。
- ・除雪が大変。特に屋根雪。雪が降ると、2月中まで毎日の雪のけで、腰や腕の痛みがある。

### 【家族支援の限界】

- ・家族が離れていて即応できない
- ・子どもをあてにしているがなかなか来てくれない
- ・子どもが遠くて必要な時に帰ってきてもらえない
- ・雪の為、帰って来れない
- ・親子関係・兄弟関係が薄まっており、いざという時に協力できない
- ・息子等の若い世代は、勤務地が遠い。（休日に雪がふればいいが、平日だと仕事を休めない）
- ・若い世代は屋根雪下ろしの仕方を知らない（屋根雪下ろしは危険を伴い、熟練を要す）
- ・市内に息子世帯があるところでも、屋根雪降しはしてもらっていない
- ・仕事などがあり頼みにくいのが現状で、同じ在所に息子がいても慣れていない者がやっけてケガをするくらいなら、やらなくてよいと思っている
- ・町内に住む息子さんもすぐに来れないし、自分でやるにも段々難しくなる。

### 【資機材の問題】

- ・スコップ・スノーダンプくらいしか道具がない
- ・除雪機を持っているが、置いてある小屋までの雪かきがまず大変。力がないので操作

も大変。

- ・ 除雪機を持っていても追いつかない、階段が多いので使いづらいと思う。雪を捨てる場所がない。
- ・ 道に飛ばしてはいけないと言われ人に売った。
- ・ 持っているが使えなくなってしまった。

### 【ノウハウの不足】

- ・ 除雪スプレーをするとスコップから簡単に雪がとれるなどのノウハウ
- ・ 若者世帯になると屋根雪おろしの仕方が分からない
- ・ 楽に除雪できるノウハウがあれば
- ・ 若者世代が、雪かき（屋根雪下ろし）の経験がない。
- ・ 雪かきの正しい知識を知らない人が増えている。

### 【ハード面の問題】

- ・ 瓦屋根なので屋根雪の除雪時に（足元が）すべりやすい
- ・ 自然落雪の屋根に改良したいがお金がかかる
- ・ 瓦屋根をトタン屋根に改装した世帯もある。落ちた雪の処理は大変。
- ・ 豪雪地帯では、屋根雪の除雪が問題。
- ・ 屋根から水を流す装置をつければよいが、コストがかかる。

### 【自治会組織の脆弱化】

- ・ 町内会を支える組織が弱く、高齢者等を助けられない。
- ・ 高齢者が多く互助が期待できない。
- ・ 今後、一人暮らしや高齢者世帯の増加
- ・ 自治会のないエリアでの取組みの難しさ
- ・ 区入りしていない人（移住の方等）の情報共有がない。

### 【別荘地・新興地・新住民】

- ・ 別荘地では道が細くて個人地が隣り合わせで、家が込み合っている所での除雪困難がある。
- ・ 新興地は寄り集まりであるため共助の意識が薄いという難しさ
- ・ 協働意識があまりないと思われる人（特に区外から引っ越してこられた新住民）

### 【担い手の不足】

- ・ 役員の負担が大きい
- ・ 除雪できるものが少ない

- ・ 地域に昼間居ることができるのは、高齢者のみ
- ・ 高齢化に伴い近隣での助け合いができにくい環境
- ・ 除雪をする時が同じなので、それぞれが自分のことで精一杯
- ・ 週末など、動ける（除雪できる）日が限られている
- ・ 地域内に除雪支援に出ようという人がどれだけいるのかが把握できていない。
- ・ 若者が少ない（除雪できる人が少ない）
- ・ 集落内の除雪をする人（ボランティアで）が、減ってきた。
- ・ 寺や神社の雪かきが出来なくなってきた。
- ・ 昔は自分の家の前の除雪は各自でしたが、それができない。
- ・ 除雪要員の確保
- ・ 若い世代が少ない。
- ・ 除雪を担える若者・働き盛りの人が少ない
- ・ 除雪の依頼は個人から個人にされているのが現状だが、いずれ頼める人がいなくなる
- ・ ボランティアを募りたいが、受入側の手が不足している。
- ・ 近隣で雪かきをしてくれる方がいない（若手がいらない、担い手不足）。学生ボランティア（高校生、大学生など）とつながりを持ちたい。

### 【現役世代の課題】

- ・ 仕事がある人は仕事に行かなければならないので、近所まで手伝えない。
- ・ 市内在住の若者でも雪おろしの方法を正しく知らない。雪かき道場のような学ぶ場をつくり、修了者を登録して除雪ボランティアに行けるといい。
- ・ サラリーマン世帯では、除雪する時間が限られる
- ・ 私設消防組に招集をかけて屋根雪おろしをする活動をしたこともあったが、週末にうまく除雪できるタイミングでないといけなし、自分の家の除雪もある中で大変である。
- ・ 雪は日を選んで降ってくれないので、週末に作業というわけにはいかない
- ・ 区役員や若者等は平日は動きにくい
- ・ 若い人は勤めがあり、作業できる時間が少ない。

### 【助け合いの限界】

- ・ 一人住まいの方には近くの方が声をかけてくれていますが、その人が出来なくなったらどうなるのか心配。
- ・ 一人住まいの方に声はかけていますが、除雪まではできない。
- ・ 高齢化が進んで地区内での支援には限界がある
- ・ 自分の家の雪処理で手一杯（近所まで手がまわらない）
- ・ 自分の家の除雪で精一杯で、近所の家まで手がまわらない。

- ・ 除雪の時期は予測できない。予定が立てられない。
- ・ 朝など自宅の前の除雪で精一杯
- ・ 自宅だけで精一杯で、近所まで手が出せない
- ・ 除雪の時期は一時期に集中して、助け合えない。
- ・ 自分の家で精一杯で、公共の場（集会所、寺・神社）の除雪まで手がまわらない
- ・ よそも自分のことで精一杯なので、とにかく自分でやらなければしょうがない現状。
- ・ 他地域の人に雪かきに来てもらうよりも、地域内の助け合いの方がいいに決まっている（雪のこともわかるし、雪下ろしのこともわかっている）が、自分の所が大変で、他をするゆとりがない。
- ・ 個人宅へは入っていきにくい。（親戚等への遠慮）

### 【意識の問題】

- ・ 必要だから「区でやろう！」となっても、「誰がするの？」となっても進まない。
- ・ 若い世代に地域貢献の意識が薄くなっている。

### 【支援の仕組み】

- ・ 支えあい・助け合いの仕組みができていない
- ・ 集落内での助け合い体制の整備（約束事・決め事）
- ・ 昔のならわし（各家の除雪範囲の申し合わせ）の崩壊。
- ・ 除雪機が入ることにより、担当者まかせになった。
- ・ たいそうなお礼をされるので、行きにくい
- ・ 今は仕組みではなく、善意で除雪が成り立っている
- ・ 人材確保と体制づくりができていない
- ・ 無料だと頼みにくい。仕組みがいる
- ・ 安全確保のための知識等を身につける講習がない
- ・ ご近所同士の話し合いができていないのでいざという時に協力がもらえない
- ・ 集落内での申し合わせが必要。その基準に合わせ対応していく。
- ・ 大雪時は安否確認で精一杯
- ・ 独居老人の対応ができない。できても遅い。
- ・ 独居老人宅の屋根雪おろし
- ・ 助け合えない。
- ・ 助けてほしい人と助けられる人を繋げていない。
- ・ 除雪は各家で行なうものという意識が強く、地域で協力して行うものという考えが無い
- ・ ボランティア派遣や地域への人材派遣は、今は区内で対応できているが、将来的には必要。

### 【要援護者の除雪】

- ・ 病弱者（男性）の除雪ができない。
- ・ 女性の世帯で、なおかつ高齢の親と同居しているので、介護と除雪が重なった場合は自分の家の前だけでもできない。
- ・ 敷地内の除雪ができない（⇒病院へ行けない）。
- ・ お父さんに介護の手がかかるので、今年は生活道から玄関の間がどうなるか心配。例年、月に 5.6 回は必要。
- ・ 除雪車が来るのが遅く、透析に行くのに困った。
- ・ 車いすの出入りが大変。

### 【困りごとの把握】

- ・ 新興地で個人情報の問題から除雪ニーズを把握できていない
- ・ 要望事項を把握できていない
- ・ 高齢者、単身世帯の安否確認が難しい
- ・ 高齢世帯の実態把握が難しい

### 【助けてと言にくい/言わない/がまんする人】

- ・ SOS を出せずにがまんされる方
- ・ 一人暮らしでは、なかなか一緒に雪かきをしてほしいと言いつらい
- ・ 女性の一人暮らしにとって除雪作業は大変。助けてと言えない人もいるだろうから、頼みやすい仕組みが必要。
- ・ 頼みに来てくれないと助けに行けないというジレンマ。
- ・ 人の世話になるのは気兼ねがある
- ・ 集落内でも誰かに頼るのは気がひける
- ・ 他人に迷惑をかけたくない。（SOS を出せない）
- ・ 高齢者世帯や独居の方で助けてと言えない。（SOS を出せない）
- ・ 普段からのつきあいがいないため、こんな時だけお願いするのは…と気が引けてしまう
- ・ 「ほっといて」という高齢者
- ・ ボランティア等を受け入れることが難しい人がある
- ・ 独居女性の場合、自分のことは自分で意識が強く一人で除雪されることもある

### 【除排雪しやすい集落づくり】

- ・ 排雪する場所の問題がある地区での確保。
- ・ 捨て場所がなく、除雪が困難
- ・ 除雪スペースがない
- ・ 雪を捨てる場所がない

- ・雪を捨てる場所がない。
- ・雪を捨てる場所がない。
- ・雪捨て場の確保ができていない
- ・区内で除雪した雪の置き場所
- ・雪をすてる場所が無い。
- ・雪の捨て場がない
- ・除雪後の雪の捨て場がない
- ・雪を捨てる場所が無い
- ・雪を運ぶ手段がない。
- ・女性だけの世帯では、雪を捨てに行けない
- ・集落内の水路に雪を捨てているが、すぐに詰まってしまう。
- ・トラクターで集落内の除雪をするが、水路が暗きよになっているところは捨て場がない。
- ・川はあるものの、一度にたくさんの雪を捨てることで、水があふれる所となくなる所がある
- ・捨て場がないので、道路をふさぐ
- ・トタン屋根の雪が家の周りを塞ぐ。
- ・軽トラのない家は、家の前の川や池に捨てるが、全く追いつかず捨てる場に困る。
- ・雪を捨てる場所に一番困っている。除雪車が、どけた雪をまた別の邪魔なところに寄せてくる。
- ・雪を捨てる場所がない。

#### 【区所有の除雪機】

- ・区内に除雪機がない
- ・オペレーターがいない
- ・除雪機のオペレーターが限られている
- ・除雪機を区で購入する予定であるがオペレーターがいない
- ・除雪オペレーターの担い手がいない（勤め先が遠い）
- ・除雪車のオペレーター不足
- ・自営者が減り、除雪機のオペレーター等の担い手が減っている。
- ・除雪車の運転手が少ない（除雪車の運転資格を持つ人は 12 名程いるが、いつも実働する人は 3 名程）
- ・除雪機器類の不足（大型機は 1 台しかない）
- ・除雪車（機）の保管管理や置き場等に問題がある
- ・除雪作業員（オペレーター）への手間賃
- ・除雪機のメンテナンスに費用がかかる

- ・ 除雪にかかる費用が負担（燃料費・部品代等）
- ・ 道路等共用するハード面の整備には費用がかかり皆で負担していかなければという意識が希薄
- ・ 免許が必要なため、扱うことができる人数が少ない。
- ・ オペレーター 10 名を順番に組んでいるが、遠方に勤めている人は土日の人に代わってもらおう。
- ・ 除雪ドーザー（オペレーター 3 名）。自分の家の前の道はやってもらえないので、隣の人が流している水が頼り。
- ・ 除雪機は雪を飛ばす場所がないし、オペレーターもいない。
- ・ 区に除雪機を使ってくれる人がいない。

### 【通学路の除雪】

- ・ 子どもたちの通学路の除雪が登校時間までにできない。

### 【路上駐車】

- ・ 積雪時の車の駐車場所や方法について、まわりの住民のことを考えずに駐車する人がいる
- ・ 路上駐車

### 【公共施設】

- ・ 消火栓等安全確保に必要な公共物の除雪
  - ・ 公共の場（集会所、作業所、寺等）の除雪（屋根雪）まで手がまわらない。
  - ・ 公共の場やゴミステーションなどの除雪
  - ・ 地区内の共有物（自治会館など）などの雪下ろしもままならない
- 集会所、寺等の公共施設の除雪（屋根雪おろしも含む）。
- ・ 公営住宅に住んでいる方の思い（雪で屋根等が傷んでも、修理は管理者負担なので本人の意識がなさすぎる）

### 【空き家ほか】

- ・ 集落内の空き家の除雪
- ・ 空き家の除雪をどうするか。（勝手にできない）
- ・ 空き家の屋根雪が落ちても誰もけけない
- ・ 小屋等（住居ではない建物）からの落雪で通行できなくなる所ができる
- ・ 通行に邪魔になる木や蔓が手入れされずに放置されている
- ・ 生活道路の除雪が不十分。空き家の除雪について、特に困っている。



### 【経費負担の問題】

- ・業者の中で単価が違う。建設業界の中で一定の調整をしてもらうことはできないか。
- ・昨年は雪かき業者のポストへの投げ込みがあったが、料金設定があやふやである地区で高額な請求があったと聞いた。
- ・高い業者や安い業者など標準的な経費（単価表）がわかるものがあれば。
- ・シルバー安心見守り事業はケア会議にて決定される、サービスを使っている人が対象だが、サービスは使っていないがシルバー人材センターに全額実費で依頼してくる一人暮らしの方もたくさんある。
- ・排雪処理ができない場合は軽トラックに乗せて捨てに行く。その場合の経費の問題。
- ・除雪業者に依頼する際の高い金額
- ・お金がない。収入がない。
- ・何度も業者に屋根雪おろしを依頼するとお金が持たない
- ・年金生活では支払いが厳しい
- ・集会所の雪かきに業者を頼むと費用がかかる
- ・屋根雪を下ろして欲しいのに、現状では業者以外は対応してもらえない（業者に頼むと高額なので、頼みたくても頼めない）
- ・助け合いの組織ではなく冬の仕事として雪かきしてくれるのでお金がかかる。（1シーズン7～8万）
- ・サービス料金が高いと思う。じゃがいもの家で無料雪かきをしていたが、今年から頼みにくいので500円払っている。
- ・親戚に頼んで来てもらっていたのでお金もずいぶん必要
- ・雪どけに業者や子ども達に渡す金額がかなりの出費であること、また業者への支払いの見当がつかなくて困るし、最初に聞いていたより高く請求されることもあり、ちゃんとした料金表のようなものを配布してもらいたい。
- ・除雪にかかる費用を自治会などで補助してほしい。
- ・除雪の無償サービス、除雪の金銭負担をできるだけ軽減してほしい
- ・自宅までの生活道（約300m）の除雪を自前の機械で行っているが、約半分の150mは区との共有道なので、燃料費の補助がもらいたい。

### 【サービスの拡充】

- ・シルバー安心見守りをしてもらっているが、来てもらう時間が遅いし、雪どけしてもらった面積が少ない。玄関から道まで以外の部分を雪どけしてもらえるとありがたい。

### 【人材の問題】

- ・大雪時の人材確保が難しい。市内でも雪の少ない地域の会員が行く。（シルバー人材）
- ・大々的に宣伝できるだけの人材が無いというのが課題。（NPO）

- ・ デイサービス事業の利用者宅には 2 人体制で行き、一人が除雪をおこなうのはどこの事業者でも悩み。(NPO)
- ・ シルバー安心見守り事業は、遠くて来てもらえない。他も、実際頼むとなると難しい。
- ・ 支援してほしいが誰もしてくれない。

#### 【ボランティアの養成】

- ・ 将来は、ボランティアなど人材派遣をお願いせねばと思う。
- ・ ボランティアや人材派遣は、お祭りのようになっている、真剣味に欠ける。親身になって、本当に困っていることを支援してくれるならと思う。

#### 【支援者の安全確保】

- ・ 屋根雪は一切できない。道路から玄関まで 1 メートルの幅で除雪をするのが基本。
- ・ 屋根雪おろしはしない。新規相談があればシルバー人材センターにつないでいる。
- ・ 安全確保のための知識等を身につける講習がない
- ・ 屋根雪おろしなどで事故があった場合の対応 (保険)
- ・ V がいても結局屋根雪は対応できる保険がなければ関われないのでは
- ・ 除雪ボランティアの保険

#### 【民業圧迫】

- ・ 除雪を仕事としている人と地域共助のバランスが難しい

#### 【ボランティア等による緊急時や日常的な支援の限界】

- ・ 降雪は突然で計画的な関わりが難しい
- ・ 外からのボランティアでは日常の支援ができない
- ・ もし頼んでも、毎日朝晩なので追いつかないと思う。一度業者に頼んだが、忙しくて来てもらえなかった。

#### 【支援者を受入れる負担】

- ・ 集落の受入では、宿泊や食事等のもてなしが大変
- ・ 外部からの受入に関しては除雪道具をこちらで準備する必要がある

#### 【支援者の除雪のノウハウ】

- ・ 除雪の仕方を知らない (自衛隊員・大学生も知らない人が殆ど)

#### 【ボランティアの移動手段等】

- ・ 除雪ボランティアが、除雪が必要な地域までの移動手段

- ・ 除雪ボランティアの駐車場がない

#### 【ボランティアの除雪道具】

- ・ ボランティア自身が、除雪に必要な備品（長ぐつや服を含めて）や機材を持っていない。

#### 【ボランティア調整の難しさ】

- ・ 日程と人数の問題
- ・ 受け入れ区や人の問題
- ・ コーディネート役の継続
- ・ 除雪協力したい人と現場をどうつなぐか

#### 【集落への公的支援のしくみ】

- ・ 行政の雪おろし支援金の事業を区が請け負うという考えができないか。
- ・ 区に補助をしてもらえる仕組みがあるといい。
- ・ 個人の所有する機械（ブル）を使用して村落内の除雪をしているが、せめて燃料代を市から出せないか
- ・ トタン葺き替えの補助、高齢世帯等への雪かき、雪下ろしの負担率を下げる、地域内の除雪活動を自治会にまわす、現在のまちづくり交付金以外に雪対策交付金用に別枠をもうける、公共場所の除雪に対してボランティアなど人材を派遣する。現在は、区内で支援できているがいずれ必要となる時がくる。
- ・ 市役所が組織して除雪隊を作るなど。除雪車に関しては、国道との連携で改善したい。

#### 【ハード・インフラ整備】

- ・ 融雪装置の設置をしてもらえない。（市や県に毎年設置の要望を出している）
- ・ 近年、消雪の水量が少なくなっている。
- ・ 消雪設備のあるところと無いところがあり、不公平である。
- ・ 国など補助金を充てた設備や機材では「除雪以外にも使える」ものでは補助できない。
- ・ 消雪道路未整備の地域では、積雪量が多いと生活道路の除雪も困難になる。
- ・ 天増川集落内にある橋を、大型車が通行可能な橋にしてほしい。

#### 【除雪車】

- ・ 除雪車が通った後の家の前は固くなった雪が大量に置かれて行く。
- ・ 業者（ブル）の雪を勝手に畑に捨てられる
- ・ 除雪車の通行後に道幅が狭くなる
- ・ 除雪車が道路の雪を通路（歩道）に除ける

- ・ 除雪車が除雪していくルート等の優先順位に疑問がある
- ・ 除雪車を運行している行政や事業者とのコミュニケーションのなさが問題
- ・ 除雪車が通る時間がまちまちで生活に支障が出る
- ・ 道路の所有者が開発業者のため除雪車が来てくれない
- ・ 市の除雪車を通学前にしてほしい
- ・ 業者（ブル）からこぼれた雪の処理
- ・ 私有道路は、市の除雪が入らないとのことだが、福祉的支援の必要な方が、そのために家から出ることができない状況にあるのは問題。
- ・ 除雪車が除雪した後の雪の塊が、玄関先や車庫前に残り、困っている家が多い。
- ・ 側溝の近くにある水道栓（バルブ）を、除雪時に引っ掛ける。
- ・ 大雪時、除雪車の出動が遅く、困っている。
- ・ 除雪に入る時間帯が悪い。
- ・ 除雪機の操作が稚拙で橋や道を傷つけることがよくある
- ・ 除雪の方法がおかしい（除雪車の雪の置き場等）
- ・ 交差点に除雪した雪が積むのはリスクを大きくしている。
- ・ 道路の雪が各戸の玄関先に除雪されるため、玄関先に固い雪が残り除雪がより困難になる
- ・ 除雪車が残していった雪の塊に困る。除雪車が来るのが遅い。
- ・ せっかく道路を雪どけしても、除雪車が通ると雪の塊が家の前やガレージの前にたまるのが困る。もう少し住んでいる人の身になって、配慮してほしい
- ・ 業者（ブル）の雪を勝手に畑に捨てられる
- ・ 除雪車の通行後に道幅が狭くなる
- ・ 除雪車が通った後の家の前は固くなった雪が大量に置かれて行く。

#### 【道路除雪】

- ・ 雪の量が多くなると歩道が埋もれ車道を歩かざるをえなくなり危険
- ・ 通学路が埋もれ子どもたちが車道を歩いている
- ・ もともとの道路幅が狭く通りにくい
- ・ 融雪装備を敷設してほしい
- ・ 歩道の除雪ができていないところがあり、道路を歩くことになり、危ない。

#### 【緊急時の対応】

- ・ 救急車等緊急を要する車両が入れない
- ・ 孤立してしまうと緊急時に対応（訪問等）ができない
- ・ 山中の区間が長くすぐに行けない
- ・ 救急車を呼んでも、除雪していないとストレッチャーが通れない。

- ・別荘地のため融雪設備もなく人工透析を受けている人の家から車が出せないといった緊急性のある場合の除雪問題。

#### 【自衛隊】

- ・自衛隊が昨冬に支援に入ってもらった際に支援の差が集落ごとにあった。
- ・マキノ、今津、朽木に 230 人ほどの自衛隊員に支援が入っていただいた。自衛隊員の中には除雪作業をしたこともない隊員もいる。

#### 【人員の問題】

- ・少数体制の支所職員で非常に厳しい面がある。

#### 【制度やサービスの周知】

- ・制度の周知ができているのか？
- ・相談窓口が知らない
- ・全ての人に除雪業者の情報がっていない
- ・知らない。どこに言えばよいかもわからない。
- ・知らないが、今後教えてほしい。

#### 【対象者の限定】

- ・シルバー安心見守り事業は、対象者が限られており、いざとなればここへ連絡すればよいという機関がないため、日々心細い。

#### 【公営住宅 1】

- ・公営住宅に住んでいる方の思い（雪で屋根等が傷んでも、修理は管理者負担なので本人の意識がなさすぎる）

#### 【公営住宅 2】

- ・高齢者世帯での冬季での生活は無理なので、できたら 1 1 月から 3 月までは市営住居で生活できることを願っている。